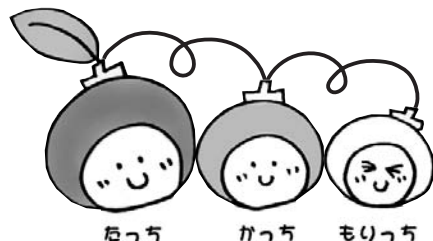


社協たかもり

※社協だよりは町民の皆様からの会費により発行されています。



ご近所パワーで助け合い!

去る9月12日、やすらぎ荘大ホールにて『住民支え合いマップの手法』講座が「住民支え合いマップ」の第一人者である住民福祉研究所所長の木原孝久氏を講師に迎え、開催されました。

高森社協では、かねてよりマップの活用方法を学びたいと考えていましたが、今回、県社協の当該セミナーを高森町で開催できるという絶好の機会を頂きました。



町内の皆さんに呼びかけたところ、多くの皆さんが参加下さり、県内各地の受講者と一緒に充実したセミナーとなりました。

*あなたの「おつき合い」の流儀は？

まずはテストです。以下の項目で「私もそう思う」と言えることに○を付けてみましょう。

- (1)困っている人にはお節介と言われぬ程度に関わる
- (2)人に迷惑をかけることだけは絶対にしたくない
- (3)人の事はなるべく詮索しないようにしている……
- (4)自分の事がご近所で噂のタネにされるのはイヤ
- (5)誰かが認知症だと気付いても、誰にも言わないようにしている
- (6)自分や自分の家族の事はあまり人に知られたい
- (7)引きこもるのにも事情があるから、無理にこじ開けるべきではない……………
- (8)人に助けを求めるのは苦手だ……………
- (9)隣人とはあまり深入りせず、ほどほどのおつき合いを心がけている……………
- (10)お互いのプライバシーは十分に尊重し合うべきだと思う……………

さて、いくつ当てはまったでしょうか。

*ご近所の助け合い(共助)は弱まる

福祉は、自助(自分の命を守る努力)、共助(近所の助け合い)、公助(行政サービス)が協力し合う事で成り立っています。

最近では自助努力の低下と公助への依存度が強まり、出番のない共助は、弱くなってきています。「いざという時の地域の支え合いは大丈夫ですか?」と木原先生。

さて、左のテストの結果ですが、○の多い人ほど、“助けられ下手”さんです。

実は日本人の遠慮や気遣いといった良いところが支え合いにはネックになっています。

そんなことにならない為にも、お互いに「助けて。お願いします。」「いいですよ。」と言える関係づくりや活動が必要となってきます。

そのために有効となるのが住民支え合いマップです。

*住民支え合いマップとは?

マップ(地図)に要援護者(一人暮らしや障がいの方)に印をつけるだけではなく、周辺住民の関わり合いや地域の伝統行事を書き込むことで人の繋がりや地域の特性が見えてきます。

そこから地域の実態や課題、対策のヒントを見つけ出すのがマップ作りです。



*講義を受けて

今回、講義を受けた皆さんからは「マップを作るのは大変ですが、とても勉強になりました。地元の事がわかっているつもりだったが、このマップで改めて見えて良かった。」といった感想を頂きました。

住民支え合いマップ作りをしてみたいという方は、社協までお問い合わせください。

暮らしの相談

平成24年度より、暮らしの相談は相談方法が変更になりました。毎月1回の15日を待たずに相談できるようになりました。相談をされたい方は、まずは社協にご連絡下さい。相談内容に沿って、専門の相談員をご紹介します。

●お問い合わせ・連絡先

高森町社会福祉協議会

電話・有線34-3717 FAX35-9589

Eメール t-shapc1@takamori.ne.jp

HPアドレス <http://www.takamori-shakyo.com/>

